

(介護サービス質の評価先行自治体検討協議会資料)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

かわさき健幸福寿プロジェクト

要介護度等改善・維持評価事業実施のご案内

平成30年11月14日

川崎市健康福祉局 長寿社会部 高齢者事業推進課



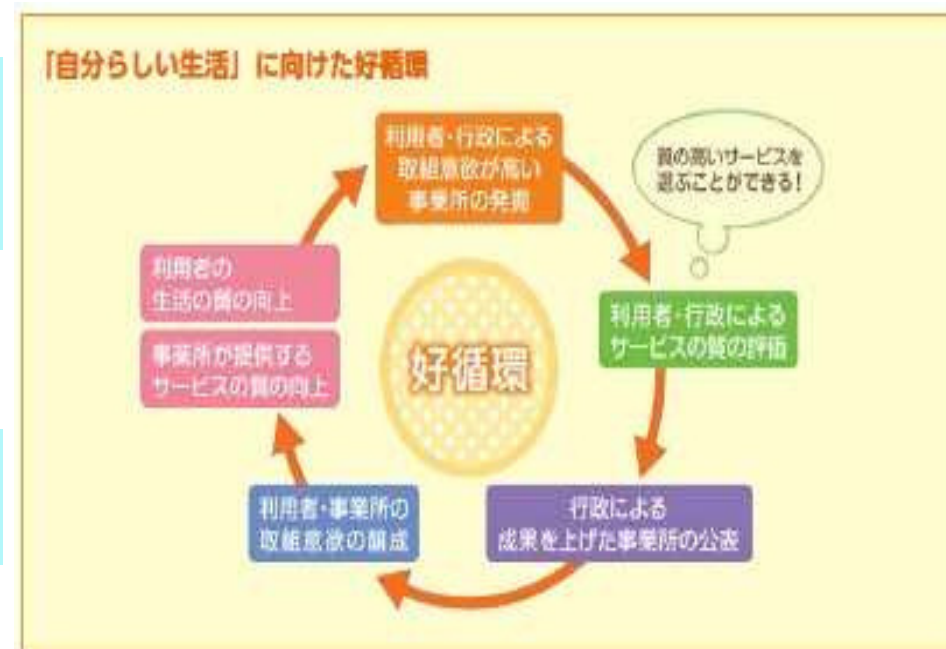
かわさき健幸福寿プロジェクトとは？

かわさき健幸福寿プロジェクト とは？

高齢者の自立支援に向けた質の高いケアを評価する仕組みの構築を目指して平成26年度から開始されたプロジェクトです。

何を評価 するの？

「要介護度」「A D L」等の改善・維持を評価対象とします。（評価指標）







なぜ要介護度の改善・維持を評価 するの？

要介護度は利用者の状態像を表す重要な指標であり、介護保険の給付はその改善・維持に資するよう行われなければならないとされています。（介護保険法第2条）

しかし、今の介護報酬体系では、**要介護度の改善は事業収入の減少**を招く場合があります。

本市では、要介護度等の改善・維持に資する質の高いケアを提供する事業者**にインセンティブを付与**することで取組意欲の向上を促し、より質の高いケアが提供される好循環の構築を目指します。

事業スケジュール（第3期）

かわさき健幸福寿 プロジェクト	2018年			2019年		
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月
事業期間						
参加受付						
結果調査（アンケート）						
結果集計・評価						
事例発表会 説明会等	★	★	★	★		★

表彰式

表彰式について

第3期プロジェクト終了後、8月～9月頃に皆様の取組を発表し、その成果を讃えるため、川崎市長による表彰式を開催する予定です。

事例発表会・説明会等

本日開催のような事業説明会のほか、プロジェクト参加事業所の皆様に有意義な講演会、研修会等の企画を行い、御案内する予定です。

① 成果指標

◆ 要介護度

2018年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合
その他、改善に至らなかった場合であって、同一の要介護度を**一定期間を超えて維持**した場合

◆ A D L 等（変化を測るため、認定調査票における能力評価の調査18項目を指標として用いる）

2018年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合
（A D L 改善の評価は、直近の要介護認定時に、本市の認定調査を受けている方に限ります。）

② インセンティブ付与（予定）

- ◆ 報奨金 5万円程度（「要介護度の改善」又は「A D L 等の一定以上の改善」があった場合）
- ◆ 市が主催するイベントにおける市長表彰
- ◆ 成果を上げたことを示す認証シールの交付（事業所向け）
- ◆ キーホルダーや参加の証（あかし）カードの交付（御利用者向け）
- ◆ 市の公式ウェブサイト等への掲載
- ◆ 事例検討会等における公表や事例集への掲載

（※）報奨金等については、市議会における2019年度予算議案の議決を要します。

A D L 等の変化を測るための指標

調査項目	選択肢
寝返り	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
起き上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
座位保持	1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえればできる 4. できない
両足での立位保持	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
歩行	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
立ち上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
片足での立位	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
視力	1. 普通(日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能
聴力	1. 普通 2. 普通の声がやっと聞き取れる 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる 4. ほとんど聞こえない 5. 聞こえているのか判断不能
えん下	1. できる 2. 見守り等 3. できない
意思の伝達	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない
毎日の日課を理解	1. できる 2. できない
生年月日や年齢を言う	1. できる 2. できない
短期記憶	1. できる 2. できない
自分の名前を言う	1. できる 2. できない
今の季節を理解する	1. できる 2. できない
場所の理解	1. できる 2. できない
日常の意思決定	1. できる(特別な場合でもできる) 2. 特別な場合を除いてできる 3. 日常的に困難 4. できない

18の調査項目の選択肢の番号について、取組開始時の合計から終了時の合計を差し引き、差がプラスであれば改善、ゼロであれば維持、マイナスであれば悪化とし、改善した場合にインセンティブを付与。なお、差が5以上の場合は、報奨金の付与を予定。

①対象者の要件

- ◆ プロジェクトの趣旨を踏まえ、要介護度等の改善に向けた意欲のある方
- ◆ 2018年7月1日時点で要介護1～5の認定を受けている方
- ◆ 川崎市の介護保険証をお持ちの方（川崎市の被保険者）
- ◆ その他、次のいずれにも該当しない方

- × 直近の要介護認定時と比較して、プロジェクト参加申請時点の心身状況に著しい改善が見られる方
- × 給付制限等の対象となっている方

②参加資格（事業所）

市内に所在する全ての介護保険指定事業所が対象となります。複数の介護サービス事業所がケアに関わっている場合、**居宅介護支援事業所が代表（申請者）**となってチームとしての参加申請をしていただきます。なお、以下の事業所は単独での申し込みが可能です。

単独申込が可能な事業所

- ◆ 介護老人福祉施設（地域密着型を含む。）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設
- ◆ 特定施設入居者生活介護事業所、認知症高齢者グループホーム
- ◆ （看護）小規模多機能型居宅介護事業所（他サービスの給付管理も行う場合は、居宅介護支援事業所と同様の手続きを取ってください。）

プロジェクトの実施状況について

●事業所の参加状況（第3期は平成30年11月7日現在）

サービス種別	第3期	第2期	第1期
訪問介護	49	40	25
訪問看護	16	25	12
訪問リハビリテーション	4	2	3
訪問入浴介護	2	0	4
居宅療養管理指導	4	12	5
通所介護	43	40	29
通所リハビリテーション	17	14	11
短期入所生活介護	10	9	11
短期入所療養介護	2	1	2
特定施設入居者生活介護	16	34	10
福祉用具貸与	21	20	15
居宅介護支援	59	55	54
介護老人福祉施設	21	29	18
介護老人保健施設	1	1	0
夜間対応型訪問介護	3	3	1
地域密着型通所介護	25	25	16
認知症対応型通所介護	2	4	9
小規模多機能型居宅介護	13	6	3
認知症対応型共同生活介護	31	16	14
地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	0	2	3
看護小規模多機能型居宅介護	3	2	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	4	0
総 計	344	344	246

●第1期・利用者の参加状況 214名

●利用者の属性と内訳について

◆性別別

男性： 48名（22.4%）

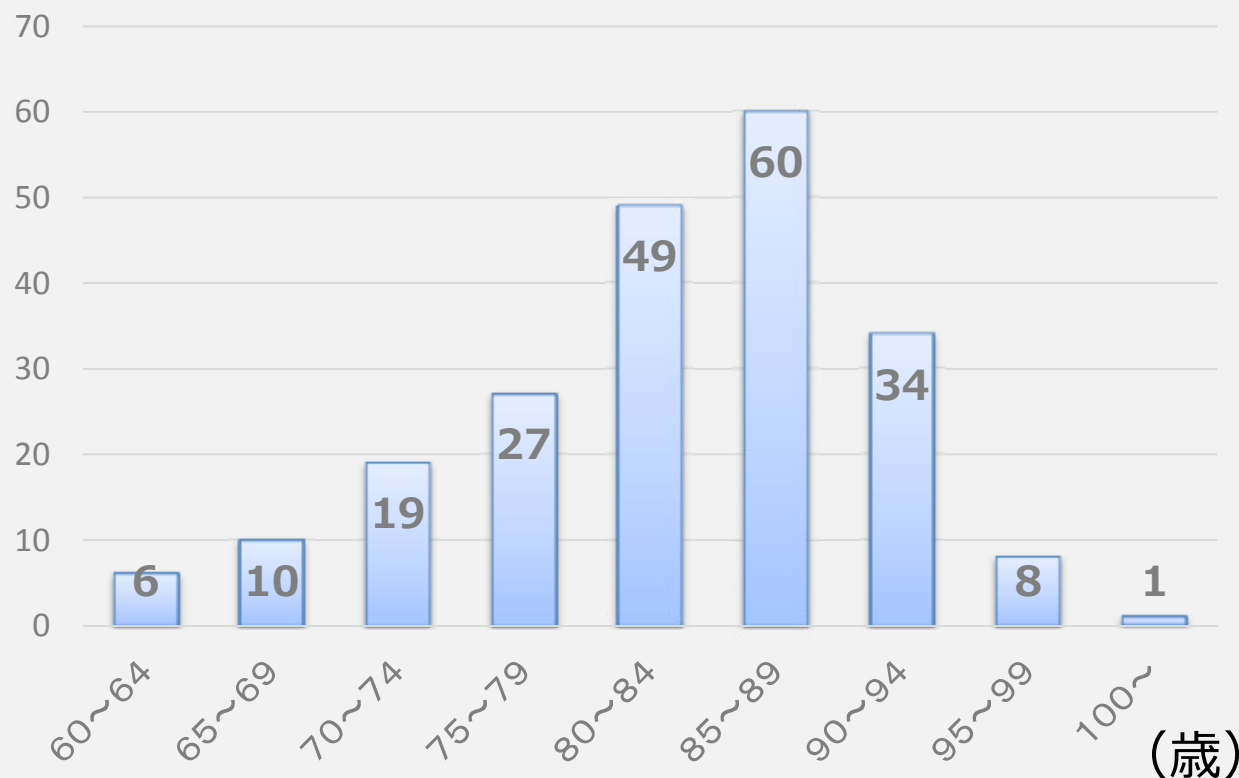
女性： 166名（77.6%）
(名)

◆年齢別

最も多いのは
85～89歳の方
→60名

最高齢は
102歳

参加利用者の年齢分布



●第2期・利用者の参加状況 516名

●利用者の属性と内訳について

◆性別別

男性：128名（24.8%）

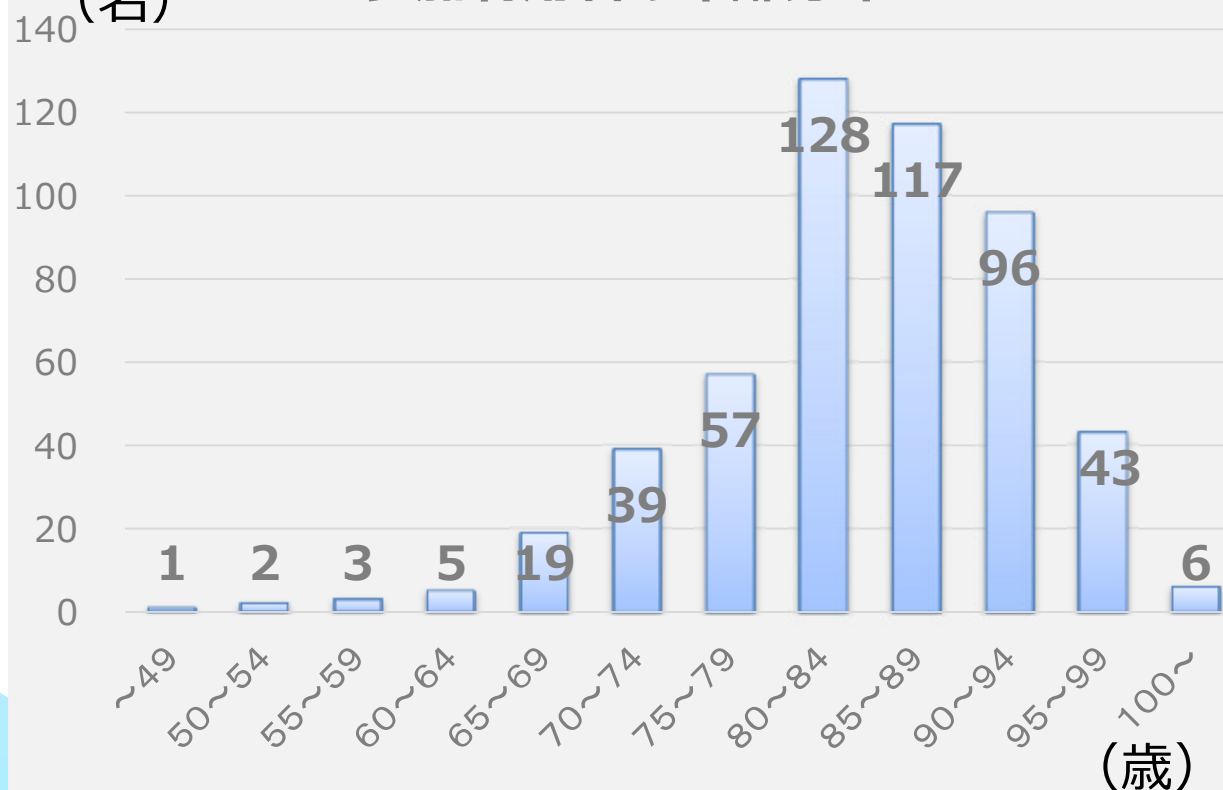
女性：388名（75.2%）

◆年齢別

最も多いのは
80～84歳の方
→128名
(第1期は85～89歳)

最高齢は
103歳の方
(参加時点)

参加利用者の年齢分布



●第3期・利用者の参加状況

573名（平成30年11月7日現在）

●利用者の属性と内訳について

※現在も申込希望の事業所・利用者あり

◆性別別

男性：152名（26.5%）

女性：421名（73.5%）

◆年齢別

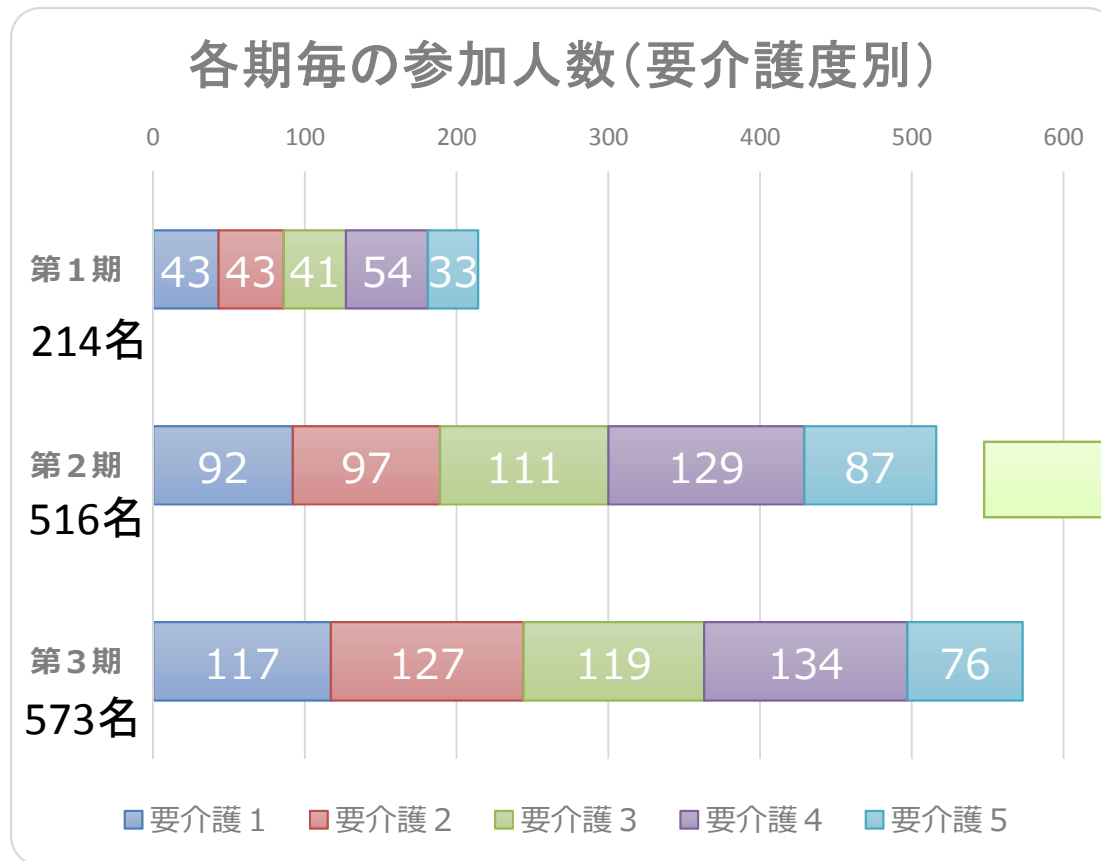
最も多いのは
85～89歳の方
→166名

最高齢は
103歳の方
（参加時点）

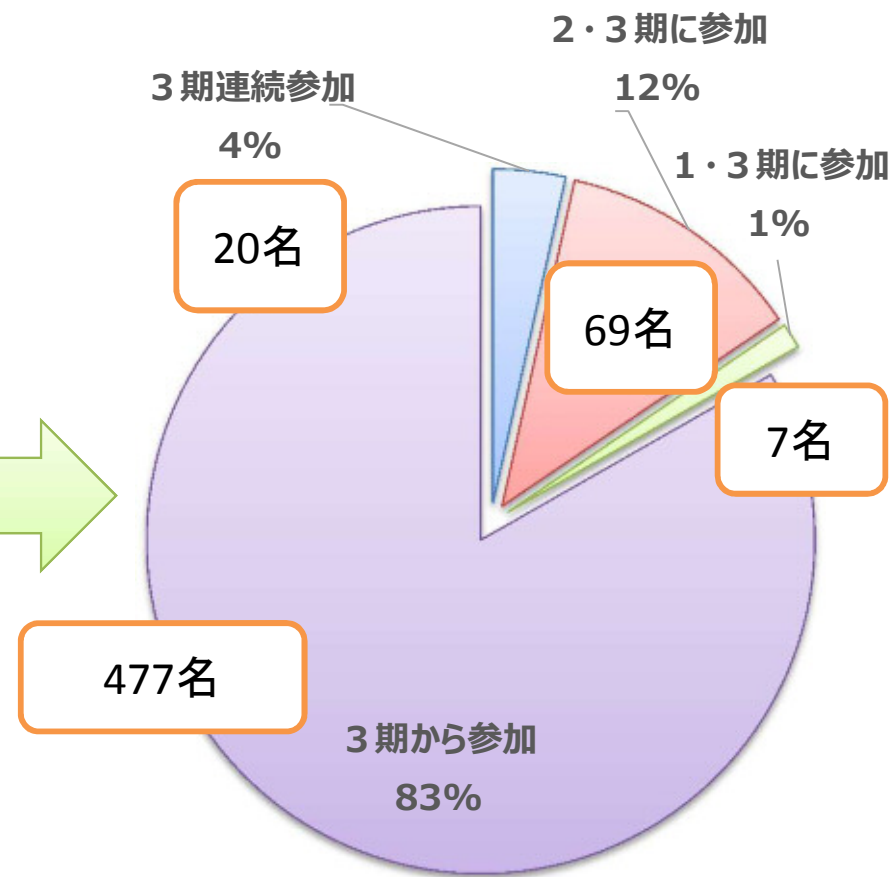
参加利用者の年齢分布



◆利用者の参加状況（第3期）



第3期の参加者属性

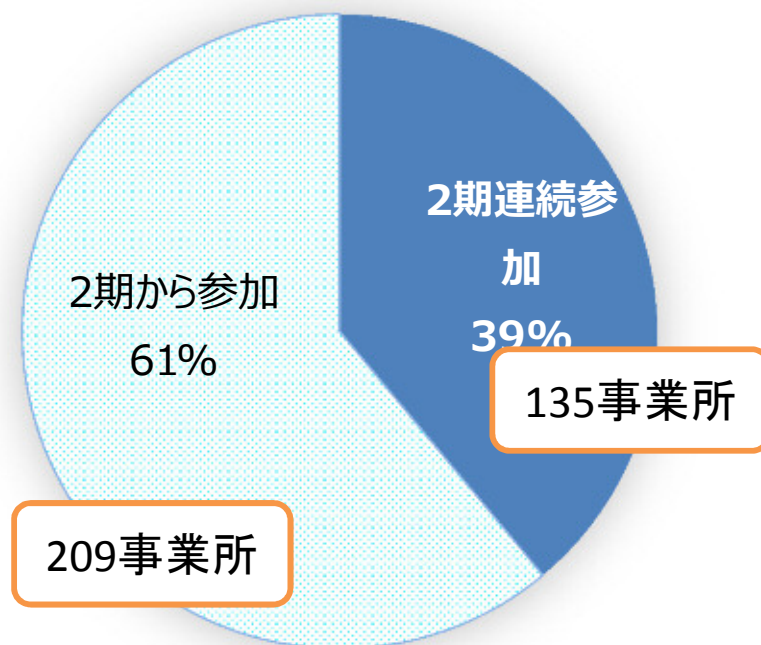


【参考】第1期プロジェクト終了時アンケートにおける、第2期不参加の主な理由について

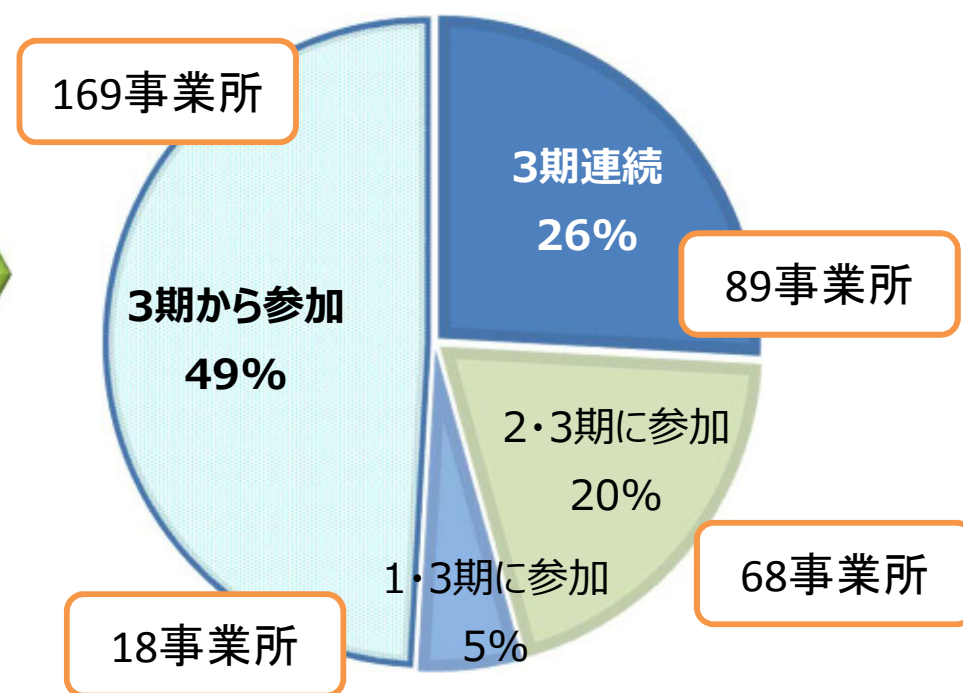
- ・第2期プロジェクトがあることを知らなかった。
- ・ケアマネに誘われなかった。
- ・1年間を通して頑張りすぎた。ゆっくり頑張りたい。
- ・改善の目標を達成した。
- ・事業所が別の人を選定した。

◆第2期⇒第3期 連続参加について（事業所）

第2期（344事業所）



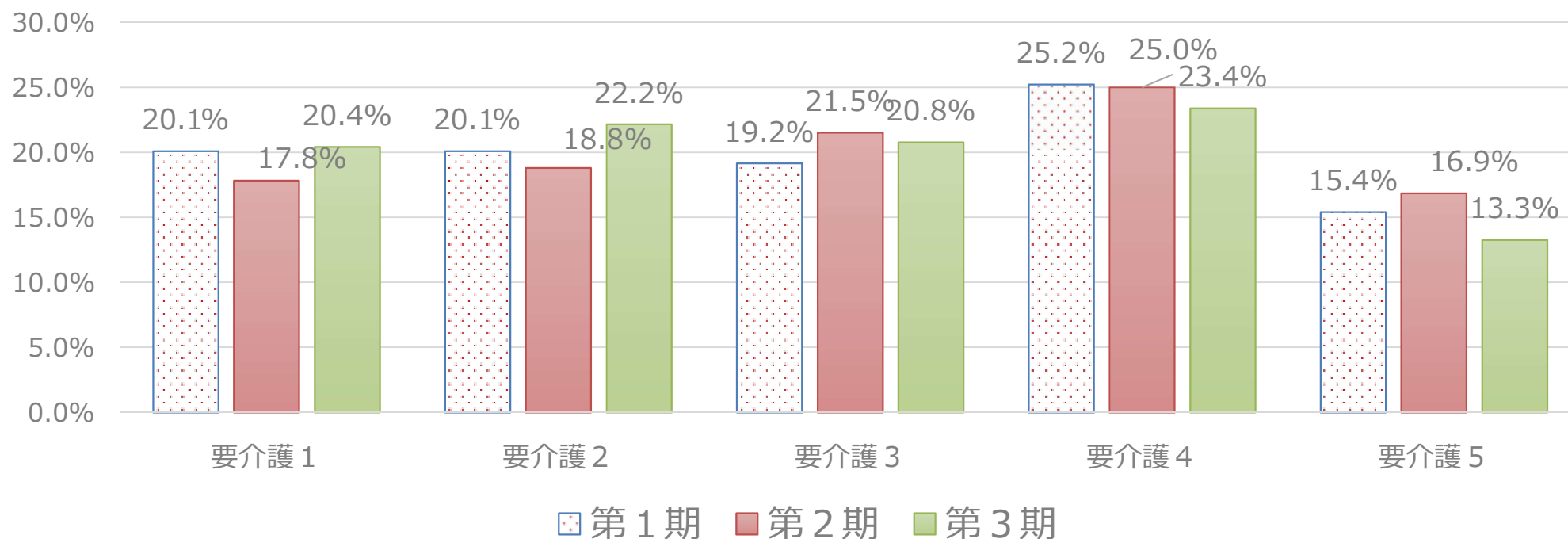
第3期（344事業所）



2期から3期に引き続き参加している事業所数は第2期に参加した344事業所中157事業所であり、残りの187事業所が今日現在、何らかの理由で第3期に参加されていない。

●参加時点の要介護度について

要介護度別の参加割合（参加時点）

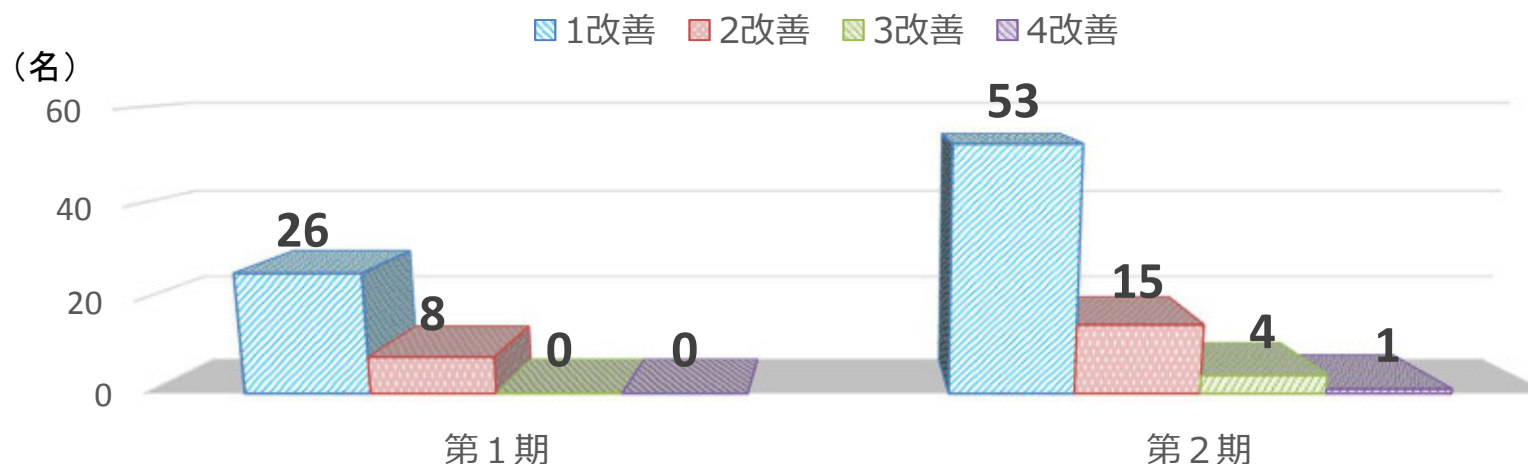


	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
第 1 期	43人 (20.1%)	43人 (20.1%)	41人 (19.2%)	54人 (25.2%)	33人 (15.4%)
第 2 期	92人 (17.8%)	97人 (18.8%)	111人 (21.5%)	129人 (25.0%)	87人 (16.9%)
第 3 期	117名 (20.4%)	127名 (22.2%)	119名 (20.8%)	134名 (23.3%)	76名 (13.3%)

●利用者（第1期214名・第2期516名）の介護度の変化

要介護度が改善された方・・・第1期：34名（15.9%）
第2期：73名（14.1%）

介護度の改善度合い



日常生活動作（ADL）の改善度合い

要介護度を改善された方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
第2期合計	21名	32名	8名	12名	73名
第1期合計	3名	17名	6名	8名	34名

● 要介護度を維持された方・・・第2期248名(48.1%)第1期105名 (49.1%)

要介護度を 維持された方	ADL				合計
	5ポイント以上 改善	4～1ポイント 以上改善	0ポイント	0ポイント 未満	
第2期合計	8名	28名	167名	45名	248名
第1期合計	2名	15名	69名	19名	105名

● 要介護度に改善・維持が見られなかった方・・・第2期195名(37.8%) 第1期 75名(35.0%)

要介護度に改善が 見られなかった方	ADL				合計
	5ポイント以上 改善	4～1ポイント 以上改善	0ポイント	0ポイント 未満	
第2期合計	3名	18名	87名	87名	195名
第1期合計	2名	5名	40名	28名	75名

★ かわさき健幸福寿プロジェクトにおける要介護度の「維持」とは？

本プロジェクトにおける要介護度の「維持」については、要介護度認定を受けた市内の全被保険者（約5万人）における、要介護度悪化までの平均継続期間を算出し、その期間を上回った場合、要介護度を「維持」したとして評価している。

川崎市内の平均：およそ20カ月前後

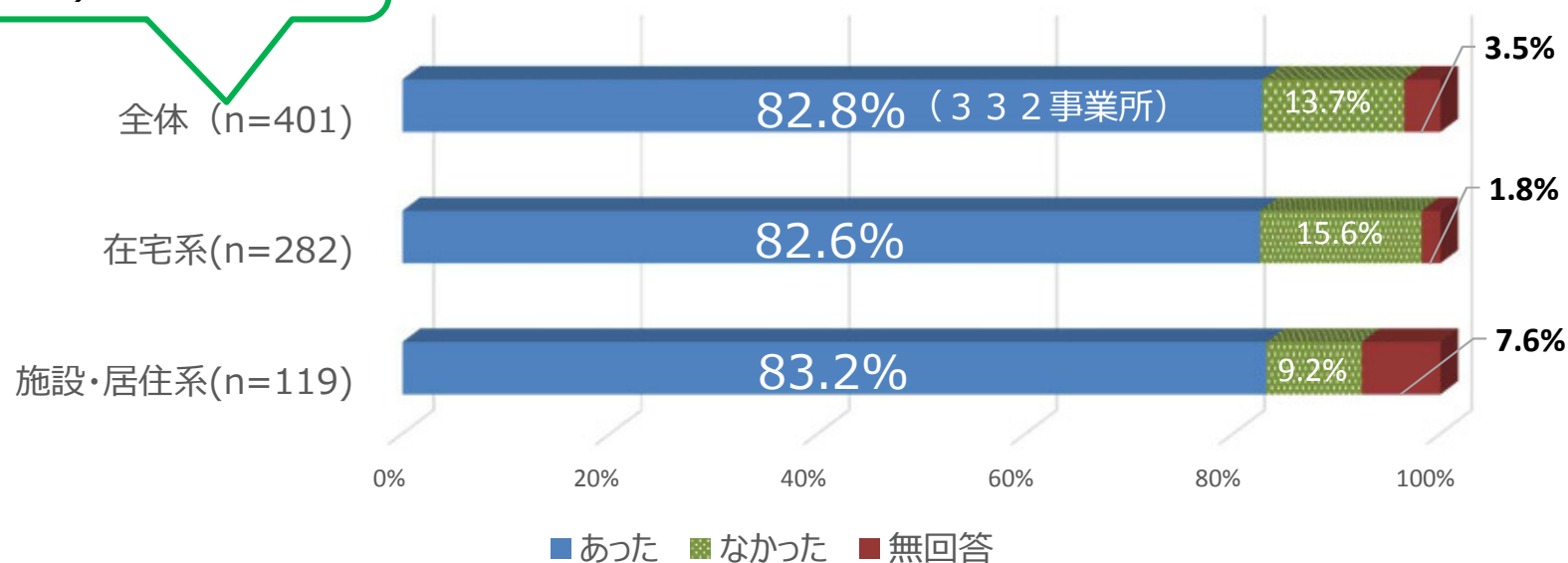
第1期プロジェクト アンケート調査の結果（抜粋）

●事業所に与えた影響①

プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響

アンケート有効回答数
401 / 423

自事業所の変化（プラス面の有無）

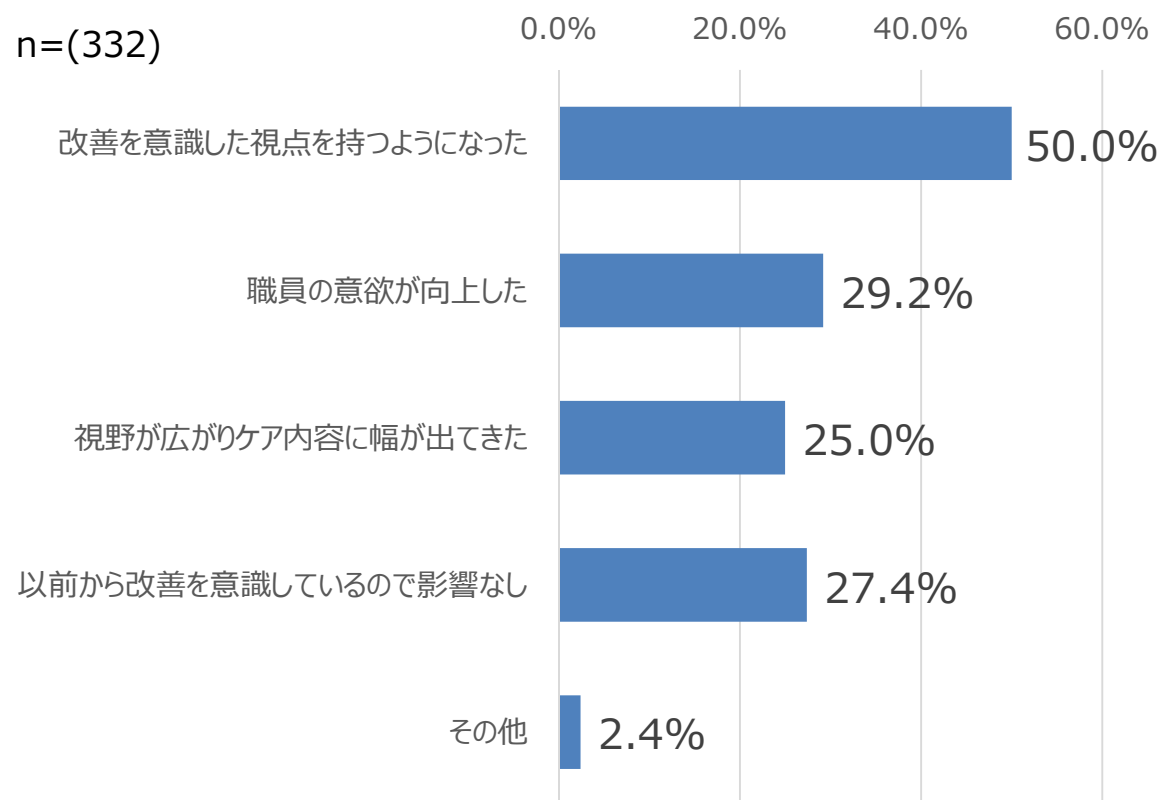


- プロジェクト参加を通じて80%を超える事業所に、何らかのプラス面の影響があったことを確認することができた。

●事業所に与えた影響②

前頁：プラス面があった332事業所が回答

自事業所のプラス面の変化内容（複数回答）



●改善を意識する、意欲が向上する等、職員の行動変容に与えた影響は少なからずあった。

●その他、御意見としては次のようなものがあった。

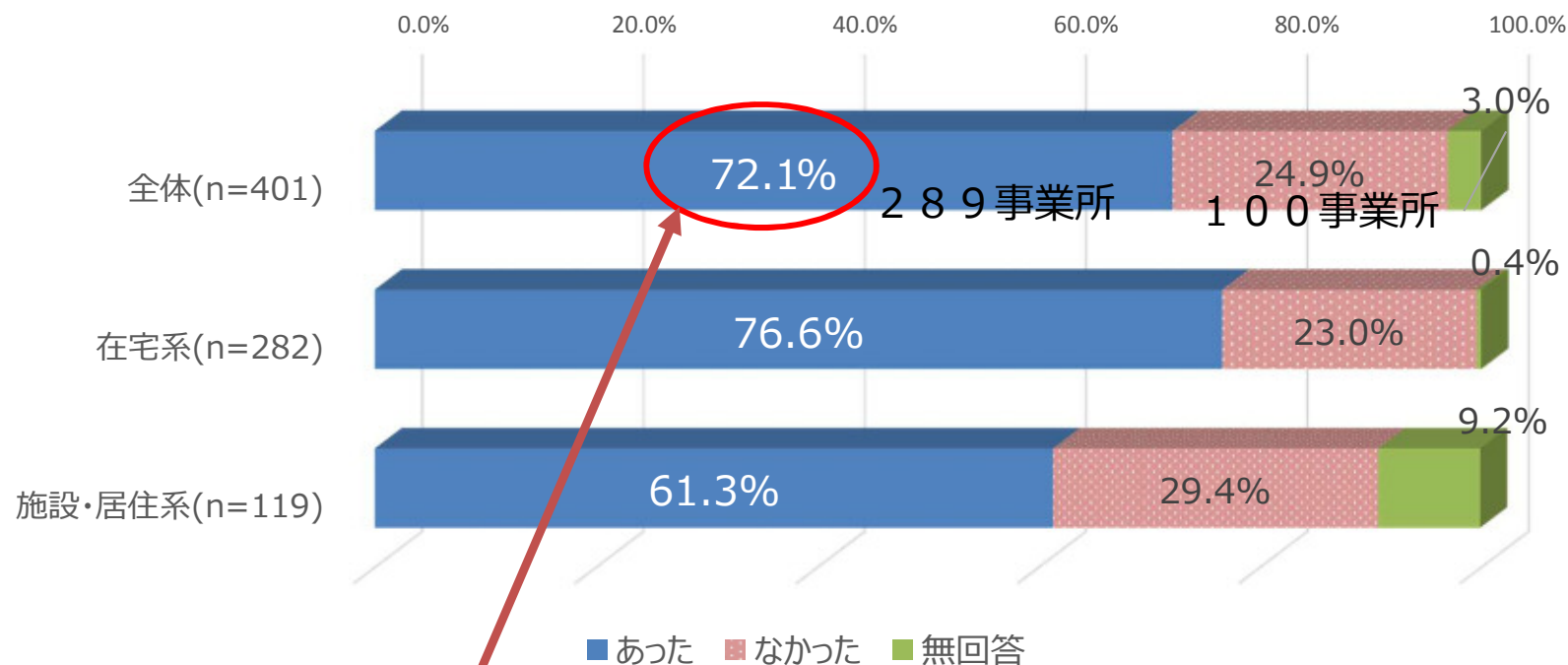
・ご本人の意欲を感じ取りスタッフも一丸となってリハビリを提供した。

⇒**チームケアの推進に寄与**

・プロジェクトに参加していることを振り返ることで常に意識づけになった。

● 事業者から見た利用者・家族の意識変化について

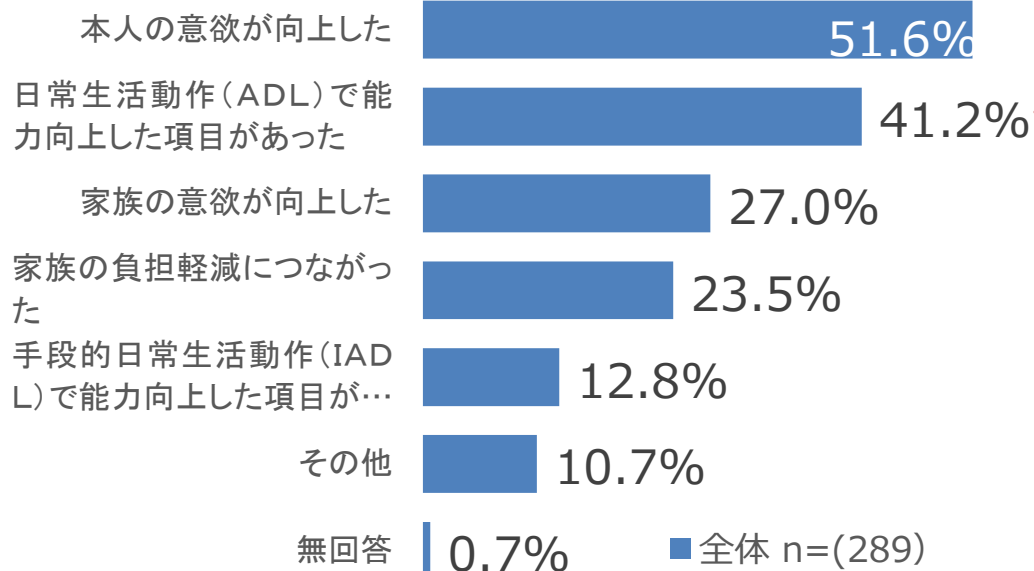
プロジェクト参加による利用者・御家族へのプラス面の変化



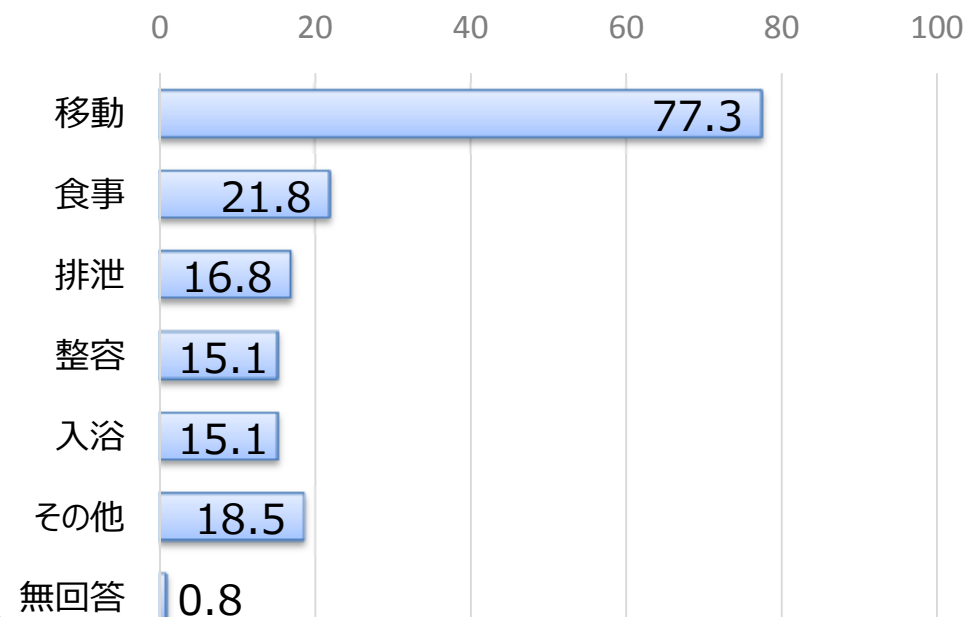
- 72.1% (289) の事業所でプロジェクト参加をきっかけとして、利用者・御家族へのプラス面があったと評価している。

●事業者から見た利用者・家族のプラス面の影響

プラス面の内容（複数回答）



日常生活動作（ADL）で能力向上した項目（複数回答）



- プラス面があったと回答した事業所の約半数が、御利用者本人の意欲向上を捉えている。
- ADLの向上を捉えた事業所が約4割。具体的な能力向上の項目については右上グラフのとおり。
- 事業への参加により移動等の日常生活動作に一定の改善効果が見られた。
- ご利用者本人や御家族の意欲向上に資する役割を担うことができた。
- その他の回答として、関わりが増えたため、御本人様からよく話しかけられるようになったことや、休まずデイサービスに通い続けるようになり、家庭内でも自分の役割を見つけ積極的に動いている等の回答があった。



第2期かわさき健幸福寿プロジェクト表彰式&記念講演

●平成30年8月24日（金）14時00分～16時00分



- 第2期プロジェクトで要介護度を改善される等顕著な成果をあげた方の中から御了解いただいた15名の御利用者様と御家族、30名の事業所職員が出席。
- 福田市長よりお一人お一人に「参加の証」や「キーホルダー」をお渡しした。
- 女優 松島トモ子氏の記念講演も開催。500名を超える来場者。